

付属書4： CQIの不正行為及び不正管理に関する方針

1 はじめに

ここでは、CQIにおける「不正行為及び不正管理に関する方針」を詳述します。「CQIの不正行為及び不正管理に関する方針」では、

- 不正行為及び不正管理の構成要素の定義
- 認定トレーニングパートナー機関（ATP）、講師、及び受講者による不正行為及び不正管理の事例の提供
- CQIとATPである組織が申し立てや紛争を調査するために従うべきプロセスの詳細
- 不正行為・不正管理の紛争や申し立てが証明された場合に、CQIが適用できる制裁措置の範囲

この方針は、ATP、支店、外部委託先、講師、及び受講者に適用されます。CQIは、不正行為または不正管理の疑いのあるすべての事例及びすべての実際的事例を調査します。不正行為または不正管理が立証された場合には、CQIは適切な制裁措置を講じ、必要に応じて対象組織のATPの地位の取り消し、もしくは受講者の資格を剥奪します。

2 用語の定義

2.1 不正行為

不正行為とは、「評価プロセス、CQI and IRCA認定コースの完全性、結果または証明書の妥当性、または、CQIの評価及び信頼性、及びCQI and IRCA認定コースの評判や信頼性を損なう、または損なう可能性のある意図的な行為、怠慢、不履行、その他の行為」を意味します。

不正行為とは、修了を付与するために記録を改ざんしたり、試験で不正を行ったり、ATPである組織のスタッフ、講師、支店、外部委託先、または受講者によってもたらされた非倫理的行為などの問題を指します。

不正行為はさらに、ATPである組織による以下の不履行も含まれます。：

- 申し立て及び疑わしい不正の調査、及びCQIへの迅速な通知
- CQIによる調査への協力

2.2 不正管理

不正管理とは、「ATPクオリティハンドブックに規定されたCQIのATP基準及び要求事項に準拠しない結果となる何らかの行為、怠慢、不履行、またはその他の行為」を意味します。これは、管理不行き届き、力量不足、非効率によりもたらされる可能性があります

2.3 不正行為及び不正管理の事例

不正行為及び不正管理は、ATPである組織の内部及び外部問わず、受講者、講師、ATPのスタッフ、試験監督官、採点者、もしくは外部委託先など様々な人によって行われる可能性があります。

以下は、上項に記述された定義に沿って、不正行為及び不正管理とみなされる行為の例です。このリストは、〔不正行為及び不正管理の〕全てを網羅したものではなく、CQIは、これ以外の行為を不正行為または不正管理とみなす権利を有しています

2.3.1 受講者による不正の事例

- CQI and IRCA試験の代理受験の手配
- 他の受講者へのなりすまし
- いかなる形式または手段によっても、試験問題、解答またはコンテンツへのアクセスを提供、開示、配布、コピー、写真撮影、記録、ダウンロード、送信すること
- 試験に先立ち、クローズドブック形式の試験における試験問題用紙、解答例、採点基準などの機密資料を入手すること。
- 試験会場で持ち込み不可のもの（ノート、本、辞書、電卓（禁止されている場合）、白紙）を所持していること。試験中に、携帯電話、スマートウォッチ、ヘッドフォン、イヤホン、イヤークリップなど、許可されていないものを所持していること。これらの物品の保持は、受講者が使用するかどうか、または資料に含まれる情報が受験する試験に関連するかどうかに関わらず、不正行為とみなされます。
- CQI試験規定に違反して試験会場内で他の受験者とコミュニケーションをとること
- 他の受験者の答案を書き写すこと、または故意に他の受講生に自分の答案の書き写しを容認すること
- 試験中に他の受験者と何らかの方法で共同作業を行うこと
- 答案に不適切で攻撃的な内容を含めること、及び、オンライン試験の場合、試験監督用の録音・録画ビデオに攻撃的な画像を表示することや、試験中に攻撃的な言葉を使用すること
- 受講者の成果物の盗用または虚偽の表示をすること
- 公表されたCQI試験規定を遵守しないこと
- 試験監督官から説明された試験規定への不適合（例：決められた試験時間を超えて作業を続けること、指示に対する答案及び/または答案の提出を拒否すること、試験中の行動に関する警告（禁止）に従わないことなど）
- トレーニングまたは試験の会場における迷惑行為（攻撃的なことばや攻撃的・暴力的な行為を含む）
- 証明書を含む結果文書の改ざんまたは偽造

2.3.2 ATPである組織、支店、または外部委託先で働くスタッフ、講師、試験監督官、及び、採点者

による不正行為の例

秘密保持違反

試験問題用紙や教材の機密、または受講者の答案の機密を侵害する行為これには以下の事項が含まれます：

- ・ 試験前、試験中、または試験終了後に、試験問題用紙、採点基準、または答案を安全に保管しなかった場合
- ・ CQI and IRCA試験に関連する機密情報を公の場で議論または暴露すること（ソーシャルメディアチャンネルへの投稿など）
- ・ 受講者の試験答案の改ざん

欺瞞（虚偽）

以下のような、試験に関連する不誠実な行為：

- ・ 与えられた点数を正当化するような受講者の達成度を示す証拠がないのに、試験の点数を捏造したり変更したりすること
- ・ 答案を採点する際、受講者による不正行為の疑いをATPである組織に報告しないこと
- ・ 金銭的な利益を意図して、架空の受講者を試験に参加させたり、その他の方法で評価や合格修了のプロセスを歪めたりすること

受講者への不適切な支援

- ・ 受講者へのなりすましを故意に容認すること
- ・ 試験会場で許可されていないものを受講者に所持・使用させること
- ・ CQIの規定に反して、試験中に受講者同士がコミュニケーションをとることを容認すること
- ・ 受講者が他の受講者の答案を書き写すことを許可すること、または受講者が自分の答案を書き写させることを容認すること
- ・ 試験中、他の受験者との何らかの共同作業を容認すること
- ・ 受講者へ試験解答への助言または支援を行うこと
- ・ CQIの試験規定に従って事前に時間延長が合意された場合を除き、与えられた試験時間を超えて受講者に作業をさせること
- ・ 受講者が作成した答案を破損すること
- ・ トレーニングまたは試験の会場における迷惑行為（攻撃的なことばや攻撃的・暴力的な行為を含む）
- ・ 試験中に受講者に監視をつけずに放置すること
- ・ 受講者の試験成績及び／または結果に関する情報を受講者本人以外に漏らすこと
- ・ 結果ファイル及び／または関連文書の改ざんまたは偽造

調査への協力の欠如

- ・ 調査の過程で、または、調査が必要かどうかの判断をする際にCQIが合理的に要求した情報を提供しなかった場合
- ・ 不正行為または不正管理の申し立てまたは疑いのある事例を調査するためのCQIからの指示に応じなかった場合
- ・ 合意された期限内に調査や情報提供を行わなかった場合
- ・ 不正行為の疑いをすべて報告しないこと

2.3.3 ATPである組織、支店または外部委託先のスタッフ、講師、試験監督官、及び、採点者による背任行為の例

- ・ 現行の試験問題、採点基準及び文書を使用しないこと
- ・ 試験監督官を十分に教育していないこと
- ・ 試験会場がCQIの要求に適合しているか確認をしていないこと
- ・ 講師の採点の標準化と適正化の欠如（支社や外部委託先で働く講師を含む）
- ・ 正確な受講者記録の不備
- ・ CQIへの正確な受講者データのアップロードの不備
- ・ 請求書の支払期限を守らないこと
- ・ 証明書を安全かつタイムリーに保管・発送しないこと
- ・ コース認定レビュー、コース観察、または現地監査で指摘された不適合に対し、要求された期限内に対応しなかった場合。

3 責任

3.1 CQIは下記を実施します；

- ・ CQIの試験規定と要求事項について、ATPと受講者にガイダンスを提供
- ・ 3営業日以内に不正行為や不正管理に関する申し立てや報告を確認すること
- ・ 不正行為または不正管理の疑いに関するすべての調査を実施または監督すること
- ・ 告発者や内部告発者にリスクが生じる場合を除き、関係するATP及び影響を受ける受講者に申し立ての内容について情報提供すること
- ・ 不正行為及び／または不正管理の申し立てに対して、申し立ての対象者が書面による回答を提供することを認め、判断を下す際にこれらの書面による回答を考慮すること
- ・ 不正行為に関するすべての申し立ての登録をし、維持すること
- ・ 調査の一環として収集したすべての資料を安全に保管し、通常はいかなる第三者にも開示しない（警察、他の認定機関や専門機関、または裁判所の命令（適切な場合）を除く）こと。
- ・ データ保護法に基づき、調査の一環として収集した個人データを処理すること

3.2 ATPである組織は下記事項を実施しなければなりません;

- ・ CQIの方針に沿って、不正行為及び不正管理に対処し、防止するため、不正行為及び不正管理方針及び手順を策定すること
- ・ ATPである組織で働いている、またはその支店や外部委託先下で働いているかに関わらず、すべてのスタッフ及び講師が、不正行為及び不正管理方針と手順を理解し、遵守することを確実にすること
- ・ 不正行為や管理不行き届きの疑いや実際の事案は、できるだけ早い機会にCQIへ報告すること
- ・ 申し立てを調査するATPの担当者が、不正行為や不正管理の疑いから独立していることを確実にすること
- ・ 不正行為の調査に関しては、機密性を保持することこれには、英国一般データ保護規則の原則と詳細に従って、申し立て者または内部告発者、申し立てに言及した受講者または ATPスタッフ、及び事案の性質の詳細が含まれます。
- ・ CQIから要求された情報を、必要な期間内に提供または利用可能にすること
- ・ すべてのスタッフが申し立ての調査に全面的に協力するようにすること
- ・ 調査から生じるすべての活動に従うこと

ATPである組織は、不正行為や不正管理の疑いのあるすべての事例を記録するシステムを導入しなければなりません。

3.3 CQIテクニカルアセッサーの不正行為報告の責任

試験において不正行為を疑った CQIテクニカルアセッサーは、その懸案を直ちにCQIアシュアランスチームのマネジャーに報告しなければならない。

4 CQIにおける不正行為及び不正管理の申し立てに関する取扱い手順

4.1 申し立て

不正行為や不正管理の疑いがある場合は、以下の方法もしくはルートで確認することができます：

- ・ CQIによるATPの日常的なモニタリング活動（例：試験解答用紙のサンプリング、年次監査の実施、オンライン試験の試験監督録画の確認など）
- ・ ATPである組織が行う内部品質保証プロセス
- ・ 受講者または講師
- ・ 第三者、または公益通報者

不正行為や不正管理の疑いが第三者や内部告発者からCQIにもたらされた場合、CQIは、申し立ての詳細を伝えるために内部告発者の名前を使用する許可を求めるなど、申し立ての信憑性を確認する。内部告発者が名前の使用を拒否し、申し立てが正当なものである場合、CQIは内部告発者に、調査が損な

われる可能性があること、及び内部告発者の身元を開示しないようあらゆる合理的な手段を講じることを通知します。

CQIは、情報提供者の身元が要求された場合、法的に開示しなければならない場合を除き、その身元を保護します。

4.2 対応

CQIは申し立て内容をレビューし、以下のいずれかの選択肢を決定します：

- (a) これ以上のアクションを起こさない
- (b) 疑惑の事案について完全な調査を行うこと、及び、書面で報告書を提出することをATPに要請する
- (c) 問題を直接調査する

b) またはc) の場合、CQIはATPと影響を受ける受講者に、不正行為及び/または不正管理の申し立てがあったことを通知します。

4.3 調査

調査の主な目的は、CQI の要求事項への不適合が発生したかどうか、あるいは CQI and IRCA のブランドと評判がリスクにさらされたかどうかを判断するために、申し立てに関する事実を立証することです。調査の目的は、不正行為または不正管理の詳細、状況、規模、及び ATPのCQI and IRCA認定コース開催の管理と提供への幅広い影響を明らかにすることを目的としています。

調査では以下を遂行します：

- ・ 関係者及び不正の根本原因の特定
- ・ 現行の受講者に対するリスクを特定し、必要に応じてリスクを最小化するための行動をとること
- ・ 既にATPが行ったアクションのレビュー
- ・ 現在の受講者に対するリスクを軽減し、CQI and IRCA認定コースの完全性を維持するために、是正措置が必要かどうかを検討すること
- ・ 既に発行されている証明書について、何らかの対応が必要かどうかを確認
- ・ ATPまたは受講者に適用される制裁措置を裏付ける証拠の入手
- ・ パターンや傾向を把握
- ・ CQI 及び/または ATPが変更すべき方針または手順を特定すること

申し立ての規模と重大性に応じて、調査が行われている間、ATPによるCQI and IRCA認定コースの提供を一時停止が必要になる場合があります。調査終了後、一時停止は見直されます。

調査には、申し立てに応じて、ATP、その支店、外部委託先で働くスタッフや講師への聞き取り調査が含まれる場合があります。また、受講者への聞き取りが含まれる場合があります。聞き取り調査を受ける人は、調査中

に別の人を同席させる権利を有しています。ただし、同席者が聞き取り調査に積極的に参加をしてはならず、聞き取りの対象者の代わりに質問に答えることはできません。

個人が不正行為で告発された場合は、その個人に対して以下の行為がなされなくてはなりません：

- ・ 本人に対する申し立てが書面により通知されること
- ・ 申し立てを裏付ける証拠を知らせること
- ・ 申し立てに対して回答する機会があること
- ・ 必要に応じてアドバイスを求めたり、必要に応じて補足説明を行ったりする機会が与えられていること

4.4 調査報告書

CQIは、申し立てに関する調査報告書を作成し、CQIのATP 基準及び要求事項、及び／または、試験規定に対する不適合領域、及びCQIのブランドに対する風評リスクを特定します。この調査報告書では、対処すべき是正措置と適用すべき制裁措置を明らかにします。

5 不正行為や不正管理が証明された場合の制裁措置の実施

CQIは、不正行為や不正管理が証明された場合、制裁を加える権利を有しています。どのような制裁が適用されるかは、その行為の重大性と状況によって異なります。想定される制裁措置の例を以下に示します。このリストはすべてを網羅しているわけではなく、CQIは、不正行為の性質上正当化される場合には、他の制裁措置を適用する権利を有しています。

5.1 受講者による不正行為または不正管理に関する制裁措置

- ・ 試験中の行為に対する、受講者への文書による警告
- ・ 該当する試験の特定のセクションの点数を失うこと。これにより、受講者は試験全体を再受験しなければならない可能性があります。
- ・ 試験全体の点数を失い、その結果、受講者は失格となり、試験全体を再受験する必要があります。
- ・ CQI and IRCA認定コースの合格修了証明書の取り下げ

留意事項；既にCQIメンバーまたはIRCA登録メンバーである受講者による不正行為は、その内容によっては、CQI 行動規範に違反する可能性があります。その結果、CQIは該当の受講者からCQIのメンバーシップを剥奪することやIRCA登録簿から削除すること（またはその両方）があります。

5.2 ATP、支店、外部委託先で働く個々のスタッフや講師による不正行為または不正管理に関する制裁措置

- ・ 講師やスタッフの行為に関する書面による警告をATPが受領すること
- ・ 講師やスタッフが特定の期間に特定のトレーニングや指導を受け、ATPが個人のパフォーマンスをレビューして、その役割の能力要件を満たしていることを確認するための要件

- ・ 講師またはスタッフの、特定のCQI and IRCA認定コースのトレーニング及び試験の実施、評価、管理を一定期間または恒久的に停止すること

留意事項: 既にCQIメンバーまたはIRCA登録メンバーである講師もしくは個人による不正行為は、その内容によっては、CQI 行動規範に違反する可能性があります。その結果、CQIはCQIのメンバーシップをなく奪することやIRCA登録簿から削除すること（またはその両方）があります。

5.3 ATPによる不正行為または不正管理に関する制裁措置

- ・ ATPがCQIの要求事項に違反したことを通知する警告書（調査報告書を含む）を受け取り、今回の違反またはその後の違反が再発した場合には、さらなる措置が取られる可能性があることが通知されること
- ・ ATPが指定された期日までに対処すべき必要な是正措置を含む調査報告書を受領すること
- ・ CQI が（ATP の費用負担で）特定の認定コースやプロセスに関連して実施されるモニタリング活動のレベルを上げること。例えば、追加の監査訪問や答案のサンプリングなど
- ・ CQIがATPに対して1つより数が多い外部委託先契約の解除を要求すること
- ・ ATPのCQI and IRCA認定コースのうち、一部またはすべてのコースの受講者の登録をCQIが一定期間停止すること
- ・ CQIがATPのCQI and IRCA認定コースのうち1つ以上のコースの認定を取り消すこと
- ・ CQIが組織のATPの認定を取り消すことCQI and IRCA認定コースの提供が一切できなくなる

5.4 CQIの制裁措置に対する異議申し立ての権利

関係する個人またはATPは、CQIが課した制裁に対して異議申し立てをする権利があります。オンライン試験の場合、受講者は『CQI and IRCA オンライン試験 受験者向けガイド』に記載されている CQI のオンライン試験 異議申し立てポリシー を読み、オンライン試験異議申し立てフォーム（受講者はATP から入手可能）に記入する必要があります。不正行為または不正管理の決定に対するその他の異議申し立てはすべて、CQIからの制裁の通知を受け取ってから30営業日以内に、Executive Director Membership and Commercial Services宛に行わなければなりません。

個人またはATPが、CQIが最初の調査において一貫した手続きを適用しなかったこと、もしくは、手続きが適切かつ公正に行われなかったことを証明できる場合、あるいは、新しい証拠が明らかになった場合にのみ、異議申し立ては検討されます。

※ 本文書は[英文版](#)が正であり、日本語版は参考として作成されています。これら両言語版の間に齟齬がある場合、英文版の内容が優先されます。